

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：11401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03036

研究課題名(和文) 秋田県旧鉱山地域における在日朝鮮人の生活史

研究課題名(英文) Life Histories of Koreans in the Former Mining Area in Akita Prefecture

研究代表者

高村 竜平 (TAKAMURA, Ryohei)

秋田大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：30425128

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では大規模な鉱山が近現代地域史の中心を担ってきた秋田県とくに北部の地域史の中に在日朝鮮人の生活史を位置づけることを試みた。地域史に関する共著書の一部に収集資料を活用することができたが、在日朝鮮人の生活史については発表に至らなかった。その理由は、当初は在日朝鮮人にたいすインタビュー調査を中心にする予定であったが、それが予想以上に困難であったことである。

ただし調査途中に文献資料が発見されたため、終戦直後の密造酒生産とその取り締まりに関する文献調査に調査方針を切り替え、収集資料を整理するとともにその一部を歴史教育にかかわる地域住民を中心とした集まりにおいて発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義としては、当該地域の戦後史の中心である鉱山業の動向を明らかにし、それを他地域との比較することができたところにある。在日朝鮮人の生活史については、学術研究として発表する準備段階にあるが、当該地域の住民とくに歴史教育にかかわる団体に収集した資料の整理結果を一部ではあるが還元し、地域史調査の主体となる人々に提供することができた点を社会的意義として挙げるができる。

研究成果の概要(英文)：This study tried to locate the life history of Koreans in the regional history of Akita Prefecture, especially in the northern part, where large-scale mining industries have played a central role in the modern regional history. It was possible to make use of the collected materials in some of the co-authored books on regional history, but the history of Korean residents was not published. The reason for this was that it was originally planned to focus on interview surveys of resident Koreans, but this was difficult than expected.

However, since some documents were found during the research term, I changed to the document survey on the production of illegal liquors and its control immediately after the WWII. A part of the collected materials could be presented to local residents mainly related to history education.

研究分野：文化人類学

キーワード：地域史 鉱山 在日朝鮮人

1. 研究開始当初の背景

本研究は秋田県の旧鉱山地域における在日朝鮮人の生活史について明らかにしようとするものである。在日朝鮮人に関する研究は、その形成過程に関する歴史学的な研究や法的地位に関する研究といった、巨視的で制度的な研究のみならず、近年では、経済活動についての研究、宗教や生活文化に関する研究など、しだいに微視的で日常生活を対象にした研究も行われるようになってきた。2010年に国際高麗学会が編集した『在日コリアン辞典』(国際高麗学会日本支部「在日コリアン辞典」編纂委員会編、2010)では、「喪服」「キムチ」などの生活文化関連項目が数多く立てられているが、それもこのような微視的研究の蓄積によるものである。そのうちで、比較的近年に盛んになってきたのが、地域社会に焦点を当てた研究である。

ただしそれらの研究は、安岡(2014)による農村部を対象としたものを除けば、大都市部の集住地域に関するものがほとんどであった。これは、大都市の集住地域では現在でも在日朝鮮人間のコミュニティがあることを前提として、そのネットワークを活用して調査したり、そのコミュニティを調査対象にしたりしてきたからであろう。しかし、在日朝鮮人はつねに移動しながら生計を立ててきており、集住地域が典型的な在日朝鮮人の世界であるとも言いがたい。以上のような点から、非集住地域の在日朝鮮人の生活史を地域史の中で記述することは、意義が大きいと考え、本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

本研究は、秋田県内の非鉄金属鉱山地域の小都市が対象であり、しかも現在では集住地域とみなされてはいない地域の研究であるところに特徴がある。秋田県は戦前には数多くの非鉄金属鉱山を持ち、鉱山労働者としての在日朝鮮人も多く居住していた。そのため、戦前の状況については、野添憲治(2005)など、戦時中における鉱山での強制労働を中心として、生活史調査の蓄積がある。これらを踏まえつつも本研究では、鉱山が衰退し地域社会そのものが変化していく中で、在日朝鮮人たちの動向について調査することを目的とした。大都市部以外での在日朝鮮人については、すでに共同研究がおこなわれているが(科学研究費補助金「地方をフィールドとした朝鮮半島系住民のネットワークと生活世界の多声性に関する研究」2007-2010)、その研究報告書を見るかぎり、東北地方における調査結果はいまだ十分に発表されていないようである。今後より研究が蓄積されていくべき領域であると考えた。

3. 研究の方法

計画当初は、まずは鉱山業の動向を中心に地域の近現代史を整理し、そのうえで戦前から戦後さらに鉱山業が衰退した後の在日朝鮮人たちの生活史を、主に聞き取り調査により研究することを予定していた。しかし、鉱山業の動向に関する調査は進んだものの、調査対象予定者の側や申請者自身の都合により、予定通りのインタビュー調査は困難となった。

その一方で、終戦直後に関する文献資料を発掘することができたため、文献調査を中心とすること、および終戦直後に時代を限定することに方針を変更した。まず、秋田県北部の北麓地域における地域紙を複数確認し、1940年代の記事から在日朝鮮人やその生活にかかわる記事を調査した。一方で、当時の朝鮮人による密造酒製造とその取り締まりおよび裁判に関わる文献資料を確認することができたため、この事件とそれを取り巻く当時の地域社会を調査することに方針を定めた。これらの資料から、とくに日本人と朝鮮人との関係について考察することとした。地域社会のなかの在日朝鮮人史を考えるためには、とくに非集住地域では、日本人とのかかわりを明らかにすることが必要と考えたためである。すでに発表された、伊地知紀子(・・・)による大阪府南部の非都市地域に関する研究成果が、新たな方針の参考になった(申請者はこの観点から同書の書評を行った(高村 2019))。そのため、当時の生活状況について、日本人住民から聞き取り調査を行う試みも行った。

4. 研究成果

鉱山業の動向を中心とした地域の近現代史の概要については、すでに発表することができたが、上記のように研究方法を変更したこともあり、研究の中心部である在日朝鮮人の生活史についてはいまだ発表に至っていない。

(1) まずは、本研究が中心的な調査対象としている秋田県北部の大館市・小坂町・鹿角市周辺を含む「北鹿」地域について概観しておく。この地域には、現 DOWA グループ(戦前は藤田組、戦後は同和鉱業という名前で営業し、2006年に持株会社 DOWA グループとなった)をはじめとする企業が開発した、数多くの非鉄金属鉱山が存在し、この地域の近現代史の中心となってきた。この地域と藤田組の名を挙げたのは、日本独特の「黒鉱」とよばれる鉱物の製錬に成功してからである。鉱山の開発は、この地域を鉱業を中心としたひとつの地域社会として形成した。たとえば藤田組の経営する小坂鉄道は小坂と大館・大館と花岡を結び、その相互で鉱石や製錬された金属が往復し、大館や小坂(そして三菱の開発による現鹿角市の尾去沢鉱山や花輪なども)は、鉱山企業とその労働者がくらす都市として成長した。

本研究では、そのようなこの地域の性格が戦後もつづいたこと、とくに1960年代からはじまる「黒鉱ブーム」の時期には鉱山業がさかんになったものの、その後の円高の影響により衰退に

向かったこと、ただし採鉱の場所や精錬の施設が、廃棄物処理やリサイクルに活用され、とくに首都圏の一般廃棄物を受け入れるようになったことを明らかにした（高村ほか 2019）。

(2) この地域の在日朝鮮人の歴史は、戦前に始まる。鉱山にかかわる単純労働や、古鉄商などに朝鮮人がかかわっており、また戦争末期には徴用による労働者も存在した。敗戦直後に組織された在日朝鮮人連盟（朝連）の秋田県本部は、秋田市ではなく大館市に設置されたほど、この地域は朝鮮人が多く存在していた。ただ戦後になると、朝鮮人による鉱山にかかわる労働はなくなり、朝鮮人たちはほかの労働を求めるようになる。そのなかには密造酒の製造と販売があった。本研究では、とくに終戦直後の時期の密造酒製造販売についての史料を収集した。

なかでも、1948年に花岡（現大館市）・小坂・花輪・尾去沢で税務署と警察の合同による大々的な密造酒製造取り締まりについては、弁護を担当した布施辰治の残した資料（「布施辰治弁護関係資料」中「秋田大館一件」）を確認することができた。この事件を申請者は、在日朝鮮人に対する濁酒取り締まりについての研究である李杏理（2013）により知った。本研究ではとくに、秋田県北部という地域史の脈絡に位置付けること、またそのために日本人との関係を考察することをめざした。

たとえば、この事件では合計36名が起訴されているが、このうちには朝鮮人と内縁を含む婚姻関係をもつ日本人もふくまれている。またほとんどのものは原材料の購入元や生産物の販売先を日本人としている。史料には密造酒として濁酒のみならず焼酎や清酒も含まれていたが、当時の地域紙の新聞記事では、正月などに特別に酒類の配給があったことが報じられており、密造酒もまた祝い事などで日本人の生活に必要とされていたことがうかがわれる。

筆者は以前に、秋田県立公文書館で以前に収集した、外国人管理にかかわる資料を収集したことがある。これらには1950年前後の外国人（そのほとんどは朝鮮人である）の県内の分布や、朝鮮人組織の状況などが含まれており、今回収集した資料と照合しつつ、また日本人住民の目から見た在日朝鮮人の姿を聞き取り調査するなどもふくめて、戦後のこの地域の地域史の中に、在日朝鮮人の生活史を位置づける作業を行っている。

(3) 以上のような内容については、2020年2月に北鹿地域の歴史教育にかかわる住民を対象とした講演会において一部紹介することができた。近年、政府間の関係から日韓関係の悪化が起こっており、歴史認識もまた現在の国家単位で考えられがちであるが、地域から日韓・日朝関係を考える可能性について、限定された範囲ではあるが地域住民に伝えることができた。また、鉱山業を中心とする地域史の概要についても、総合研究大学院大学日本歴史研究専攻主催の講演会（秋田市、2018年8月）や、小坂町郷土館主催のシンポジウム（小坂町、2018年10月）において講演した。調査結果の地域への還元は申請時にも計画していたものであったが、本研究は幸いその機会を得ることができた。

< 引用文献 >

李杏理（2013）「『解放』直後における在日朝鮮人に対する濁酒取締り行政について」『朝鮮史研究会論文集』51集, pp. 137-163

伊地知紀子（2015）『消されたマッコリ。』社会評論社

国際高麗学会日本支部「在日コリアン辞典」編纂委員会 編（2010）『在日コリアン辞典』明石書店

高村竜平（2019）「書評 『消されたマッコリ。』（「ほろ酔いブックス」第6作）[伊地知紀子著]」『人文学報』113号, pp. 131-134

高村竜平・原山浩介・吉葉恭行・柴崎茂光（2019）『近現代の地域開発と社会変化 秋田県の鉱山開発を踏まえて』（総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻「歴史研究の最前線 20」）総研大日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館

野添憲治（2008）『花岡鉱山』社会評論社

安岡健一（2014）『「他者」たちの農業史：在日朝鮮人・疎開者・開拓農民・海外移民』京都大学学術出版会

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高村 竜平
2. 発表標題 鉾山以降の小坂町 - 首都圏からの一般廃棄物搬入を中心に -
3. 学会等名 戊辰戦争・明治維新150年カウントダウン特別展開連シンポジウム「小坂鉾山の歴史 - 過去から未来へ -」（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 高村 竜平・原山 浩介・吉葉 恭行・柴崎 茂光	4. 発行年 2019年
2. 出版社 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻	5. 総ページ数 84
3. 書名 近現代の地域開発と社会変化 - 秋田県の鉾山開発を踏まえて -	

1. 著者名 中田 英樹、高村 竜平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有志舎	5. 総ページ数 352
3. 書名 復興に抗する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----